



# 八中だより



第3号

令和7年5月1日

府中市立

府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年249名、二学年216名、三学年247名  
 全校生徒数712名  
 〈学校住所・電話番号〉  
 〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七  
 電話 〇四二(三六四)一八八一  
 ★雷の発生しやすい時期です。屋外での活動では躊躇ない安全行動をしましょう

大切にしたい日本人の心『奥ゆかしさ』(全校朝会の話の一部) 校長 高汐 康浩

以前、物理学者「アインシュタイン」をテーマにしたテレビ番組があった。番組の中で、一九二二年に彼が日本を訪れ、多くの人々と交流をしたことや、日本滞在中に母国の兄弟に手紙をあてたことについて触れられた。彼が書いた手紙には、「日本人はどの国の人より控えめで奥ゆかしく、思いやりがある。」と記(しる)したことが紹介された。テレビを見ながら、以前、私が住んだことのあるアルゼンチン、ブエノスアイレスで現地の人々と「奥ゆかしさ」について議論したことを思い出した。

アルゼンチン人だけでなく、きつと日本以外の国の人々は、イエス・ノーの意思表示が明確なことが多い。例えば、アメリカのロサンゼルスのホテルに泊まったとき、フロントのスタッフに地下鉄の駅までの行き方を尋ねた。「地下鉄の駅までの道順を教えてくださいませんか? (Could you tell me the way to the subway station?)」と丁寧に言ったにも関わらず、フロントスタッフは大きく首を横に振って、「ノー、あのドアのところにいる男の人に聞いてくれ。(No. Ask the doorman over there.)」と冷たく言った。日本のホテルだったらどうだろう。フロントのスタッフは地図などを開いて丁寧に説明してくれるだろう。

こんなこともあった。ブエノスアイレスの空手教室の仲間から、「明日、私たちと一緒にサッカーの試合に出ないか?」と尋ねられた。私は日本式に「明日は用事があるので・・・」とゆっくりめに答えている途中で、「どっちなんだ? 答えはイエスカノーしかないだろ。」と言われた。確かに仲間は、イエスカノーかを聞いており、私の用事などはどうでもよいことだ。

実は、このような場面はたくさんあり、アルゼンチン人の仲間からは、「お前の答えは、いつもははっきりしない」と指摘されることが多くあった。日本にいても日本人はイエス・ノーをはっきりしなくてよくないのではないか、などということも聞くことがあるが、私は必ずしもよくないとは思わない。

「奥ゆかしさ」という言葉を知っているだろうか。辞書でその意味を引くと、「上品でつつしみ深く、心がひかれる。態度にこまやかな心配りがみえて、ひきつけられる。」と示されている。ちなみに和英辞典で「奥ゆかしさ」を引くと、beautifull, modest, gracefulと示されている。間違いではないが、しっくりこない。私は、アルゼンチン人の空手教室の仲間に見えるだけ丁寧に分かりやすく日本人の「奥ゆかしさ」について説明した。ある人は「我々にはない気配りで感心させられた」と言

った。また、ある人は「とても、そんな面倒くさいことはできないな」と言った。ただ、その後は、私のとてもまどろっこしい応対については理解を示してくれるようになったのだ。

ブラジルのマナウスから船でアマゾン川を上流に向かって三時間位行ったときの話だ。まずは、マナウスに飛行機で到着した。ところが、搭乗時に預けた荷物がすべてなくなってしまった。いわゆるロストバゲッジだ。船に乗り遅れるといけないので、荷物を諦(あきら)め、ほとんど手ぶらで船に乗り込んだ。かなりアマゾンの奥地まで来た。周りはジャングルだ。目的地に到着するまでにとっても不安になった。アマゾンの奥地なので生活雑貨や服を買うお店がない。目的地に到着し、不安だった私の前に一人の青年が現れた。マロンという名前の若者だ。顔をよく見るとどことなく私たち日本人のようにも見える。マロンは「こんにちは、ようこそ」と話しかけてくれた。日本人のガイドをあらかじめお願いしていなかったのだ。この出会いは本当に偶然のことだ。マロンの祖母が日本人であることをあとで聞いた。日本が大好きで日本語の勉強を独学でしていることも聞いた。私がお願(ねが)いすることに、私が説明する前に気付いてくれ、こちらがお願いすることに、マロン自身の服などを持って貸してくれた。そして、滞在中困ったことがあったら躊躇(ちゅうちゅう)せずにすぐに連絡してくれ、と言ってくれた。途方にくれていた私は、マロンの日本人と同様の気遣いに心の底から安心することができた。それと同時に日本人の「奥ゆかしさ」のよさを改めて実感した。

先に述べたように、日本人が「奥ゆかしさ」を大切にすることがゆえに起きることはたくさんある。本校で実施している「オアシス運動」つまり、あいさつ運動もその一つだ。あいさつ運動という取組については、日本人以外の人々には理解しがたいことの一つだ。アルゼンチンの人々は見ず知らずの人でも目と目が合えば、「ニッコ」と言っただけで「HOLA! COMO ANDA? (こんにちは! 元気かい?)」などと言った方がよいのか、スルーしたらよいのか、などと迷ったり戸惑ったりしてしまうことがある。それはそれでよいと思う。「奥ゆかしさ」を大切にしながら、ときと場に応じたあいさつができるということが大切なのだ。



マロンと私

とでも人なつこい  
アマゾンの小型サル

発見 対話

授業のようす 決定 表現

★ 四月十六日の一年生の国語（神崎教諭・加藤教諭）の授業では、仲間との協働の取組により『対話』を通して、それまで気づかなかったたくさん言葉に関する『表現』に触れました。新しい表現に気づいたときには『オー』という感動と共に新たな『発見』を楽しむことができました。

★ 四月十七日の一年生の数学（上村主任教諭）の授業では、素因数分解の問題に取り組みました。新しい解き方を『発見』した生徒は、『便利だなあ』と発言し、喜んでいました。また、仲間や教師との『対話』を通して、解き方が一つではないことを『発見』しました。そして、授業を参観した校長に、一生懸命に言葉や式を用いて的確に説明（『表現』）することができていました。



Topics 生命(いのち)の安全教育

水の事故に注意!

◆くらやみ祭特別展示開催中!◆  
 本年も五月六日の火曜日まで、府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課主催で、ふるさと府中歴史館で開催しています。「ふるさと府中」を学ぶ絶好の機会ですので、ぜひ、ご覧ください!  
 (作品の画像掲載については作者(綾部氏)の承諾をいただいています)

◆府中PFSの皆さんが  
 緑のカーテンの準備をしてくださりました!◆  
 府中PFSは青少年健全育成を最重要課題として活動している府中市で事業を営む経営者の皆さんによる団体です。ゴーヤカーテンに生長するのが楽しみです。

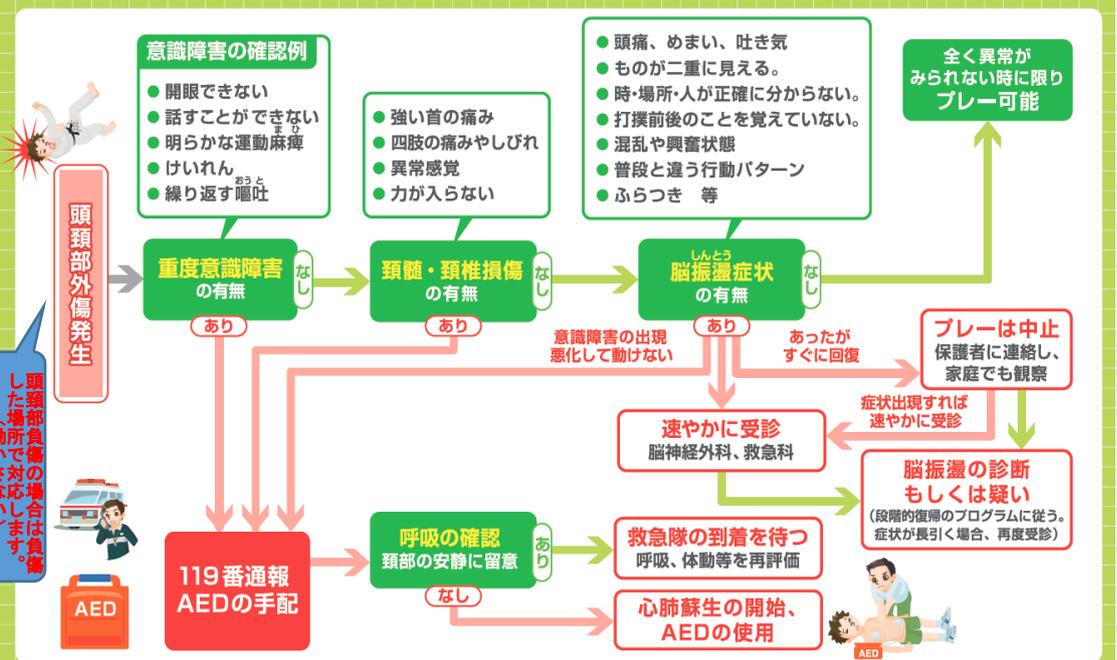


★川や沼には河童(かっぱ)がいる!?★  
 その昔、プールがなかった頃、子供たちは多摩川などの河川で水浴びや水泳をしていました。大人たちは、昔からの言い伝えて、「渦巻きがあるところには河童がいて、子供が来ると河童はいくらでも子供の足をつかんで渦の中に引き込もうとするぞ」とか「白波がたっているような場所では河童が身体をつかんで水の中に引き込もうとするぞ」などの話をしながら、子供たちに注意を与えていました。実は、これらの話は科学的に正しいといえるのです。渦の場所では水は下方に水流を作っているし、白く泡が立っているところでは浮力は働かないため身体は自然に沈んでいきます。ですから、とても危険な場所といえるのです。流水のはたらくは小学校の理科で、浮力については中学校の理科で学習します。学校での学習は安全な行動に活かすことができるのです。

学校事故対応コーナー No.1 『頭頸部外傷の対応①』

今号から連載で、学校での事故の対応についてお知らせします。学校外での事故対応にも役立ちますので、ぜひ、内容をご確認ください。

頭頸部外傷への対応



○五月の主な予定

- 二十三日(金) 土曜授業(学校公開)・部活動保護者会
- 二十五日(土) 土曜授業(学校公開)・部活動保護者会
- 三十一日(土) ふれあい自然教室

□ 五月の生活目標

- 相互理解し合い、友情を育もう

